

留学生との楽しい時間

主題名 日本を知って世界とつながる

内容項目 **伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度**
我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと

ねらい 日本の伝統や文化、四季や自然の美しさに気付き、大切にしていこうとする心情を育てる。

主題設定の理由

指導内容について

本指導内容は、我が国や郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する心をもつことに関するものである。

第3学年および第4学年の段階になると、自分たちの郷土に対する理解が深まる。さらに、自然や文化、スポーツなどへの関心も高まり、郷土から視野を広げて、我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。

我が国や郷土の伝統と文化を大切にする心は、過去から現在に至るまでに育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心をもち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。

様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち、これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。

児童について

4年生は、地域での生活が活発になるのに伴って、地域の行事や活動に興味をもつようになる。さらに、自然や文化、スポーツなどへの関心も高まり、郷土から視野を広げて、我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。

昨今は、多くの外国人が日本に住んでいたり、テレビなどの情報があふれていたりすることで、外国

人を身近に感じる児童も多い。一方で、日本の文化に触れる機会はあるものの、そのよさについて考え、実感している児童は少ないだろう。

そこで、身近な自然や文化を入り口として日本の伝統と文化に関心をもち、これらに親しむ気持ちを育てていくことが必要である。

教材の特質について

本教材は、日本のことを知ってこそ外国の人と交流できると考えていく「わたし」の心情の変化を通して、ねらいに迫るものである。

「わたし」は留学生との交流会で出会ったタイから来た留学生との会話から、自分が日本のことをよく知らないことに気付く。次の交流会から季節の花

を持っていくことで、日本の四季や自然の美しさを知るという話である。

登場人物の心情の変化を通して、児童に日本の四季や自然の美しさ、日本の伝統と文化について理解することの大切さについて考えさせることのできる教材である。

出典：編集委員会作

評価のポイント

- ①日本の伝統や文化を知ることの大切さについて、多面的・多角的に捉え、考えを深めることができたか。
- ②日本の伝統や文化、四季のあるすばらしさや自然の美しさに気付き、大切にしていこうとする気持ちを高めることができたか。

展開例

導入

1. 自分を見つめる

「外国の方と仲良くするために必要なことは何か」について考える。

- ・自己紹介をする。
- ・相手の国について知る。
- ・相手の国の言葉であいさつをする。

展開

2. 教材「留学生との楽しい時間」を読んで話し合う

(1)教材文の感想を出し合い、話し合うことの方方向性を決める。

- ・1回目と2回目の交流会の様子が違うね。
- ・下を向いてしまった「わたし」が笑顔になっているよ。

(2)「1回目の交流会」と「2回目の交流会」を比べて話し合う。

①1回目の交流会で「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。

- ・日本人なのに、日本について答えられない。
- ・日本のことをよく知らない。
- ・日本の文化や習慣をもっと知っておくべきだった。

②2回目の交流会で「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。

- ・留学生に日本のことを知ってもらいたい。
- ・日本は四季があって、咲く花がそれぞれ違い美しい。
- ・日本は自然が美しい。このことをもっと外国の人にも伝えたい。
- ・もっと日本のことに詳しくなりたい。

(3)「外国の人に紹介したい日本のよさ」について話し合う。

- ・四季があり、その時々風景がいい。
- ・日本の祭りが素晴らしい
- ・着物について教えたい。
- ・柔道や剣道、相撲などの日本のスポーツについて知らせたい。

→やっぱり、自分たちが日本について詳しくなければいけない。もっと日本のことについて詳しくなりたい。

終末

3. 学習のまとめをする

今日の学習を通して考えたことを書く。

指導上の留意点

- ・自分たちの生活から想起させることによって、ねらいとする価値への関心が高まるように、外国の方と仲良くするために必要なことについて考えを発表し合う場を設定する。

- ・気になる場面について感想を語らせながら、児童の発言を教材の中の話し合いたいこと（中心発問）につなげ、話し合いの方方向性を定めていく。

- ・2回の交流会での「わたし」の様子を比較しながら、中心発問について話し合う。

- ・「わたし」の気持ちに十分に共感させた上で、その変化について考えさせる。1回目の交流会と2回目の交流会の「わたし」の変化に着目した話し合いを展開することで、価値についての考えを深めていく場につなげていく。

- ・導入での話し合いを意識しながら、「日本のよさ」に目を向けていくことができるような話し合いの場を設定する。

主体的・対話的で深い学びのために

- ◆主体的な学びとなるように、中心発問となる「話し合いたいこと」は、児童の発言をつなげつつっていく。
- ◆多面的・多角的に考えていくことができるように、2つの場面を比較して話し合う場を設定する。

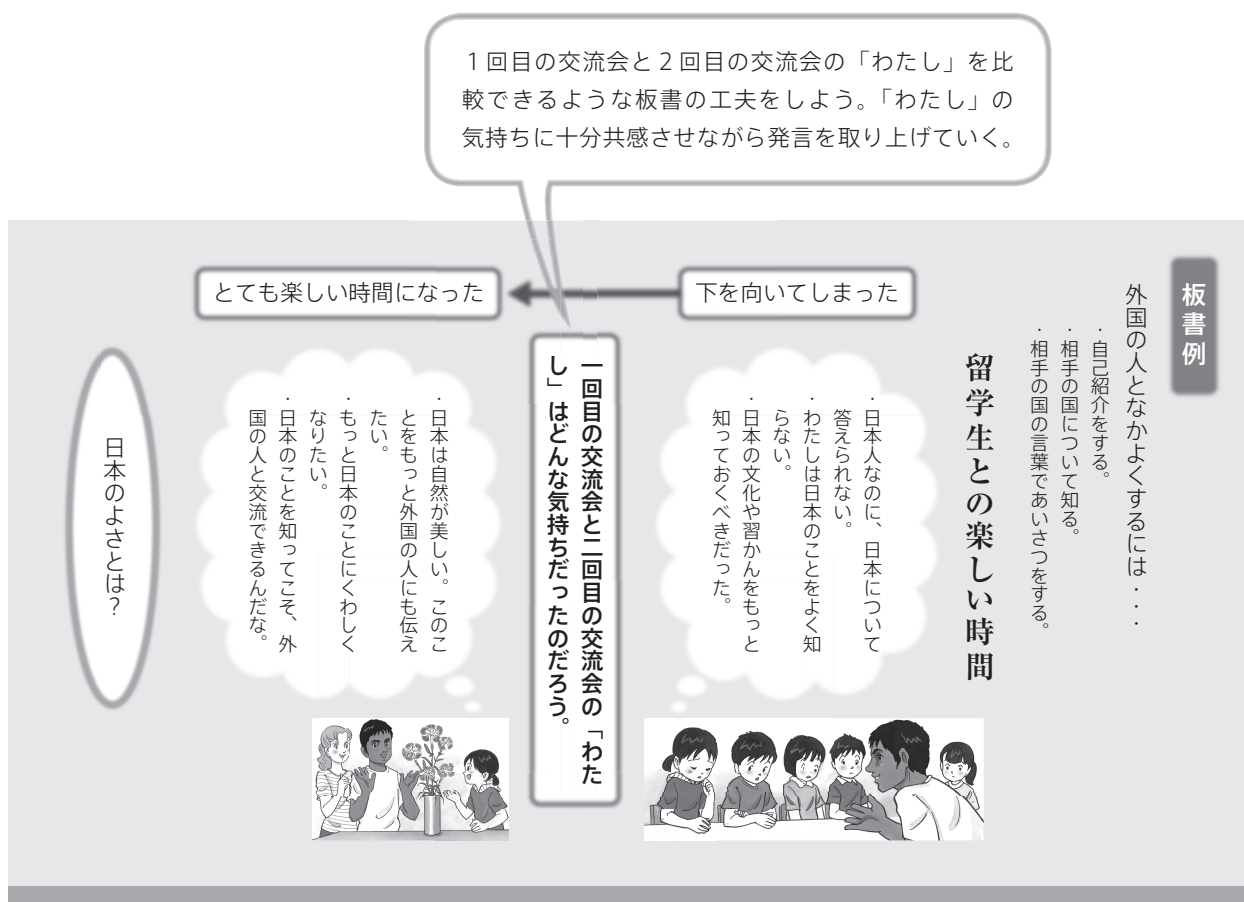
評価 日本の伝統や文化、四季や自然の美しさに気づき、それらを大切にしていこうと考えることができたか。（発言）

- ・本時の学習を通して考えたことを書く活動を設定し、価値に対する自分の思いの変容や日常の自分を見つめることができるようにする。



板書

板書例と指導の流れ



授業の流れ

- (1) 自分たちの生活から想起させることによって、ねらいとする価値への関心が高まるように、外国の方と仲良くするために必要なことについて考えを発表し合う場を設定する。
- (2) 児童の発言を教材の中の話し合いのこと（中心発問）につなげ、話し合いの方向性を定めていく。
- (3) 二回の交流会での「わたし」の様子を比較しながら、中心発問について話し合う。
- (4) 「わたし」の気持ちに十分に共感させた上で、その変化について考えさせる。一回目の交流会と二回目の交流会の「わたし」の変化に着目した話し合いを展開することで、価値についての考えを深めていく場につなげていく。
- (5) 導入での話し合いを意識しながら、「日本のよさ」に目を向けていくことができるような話し合いの場を設定する。

授業を活性化させるコツ

◆共感的追求から広げた話し合いを！

「わたし」の気持ちになりきり話し合うことで、十分共感させながら、ねらいとする価値に迫っていく。さらに、1回目の交流会と2回目の交流会の

「わたし」を比較して、その変化の理由を考えることを通して、日本の四季や自然の美しさ、日本の伝統と文化について理解することの大切さに気付かせていく。



本実践の工夫

教材の吟味・具体的な活用方法

本教材の構造

交流会で下を向いて
しまった「わたし」



わたしは日本人なのに、日本のことをよく知らないんだ。いろいろな国の人と交流するためには、言葉が話せるだけではだめなんだ。

次の交流会で季節の花を持って
いく「わたし」



- ・留学生と会話がはずみ、とても楽しい時間になりました。
- ・日本の花についてもっと知りたくって、図書館に調べに行くこともありました。

タイの留学生の質問に答えられなかったことから、日本の花にくわしくなることができました。

1回目の交流会と2回目の交流会の「わたし」の変化に着目した話合いを展開することで、ねらいとする価値に迫っていく。

「考え、議論する」授業のポイント

自己を見つめさせるために

自分たちの生活から問題意識をもたせる場面を取り入れよう

児童が授業の入り口でもつ問題意識を大切にしたい。外国の方と仲良くするために必要なことは何かを話し合わせることで、自ら問題意識をもって「考え、議論する」ことを意識していく。

道徳的価値を理解させるために

登場人物の行為の背景にある思いについて考えさせよう

登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合うことで、より深く道徳的価値について考えることができる。「なぜ～」という客観的な視点から考えさせることも効果的である。

多面的・多角的に考えさせるために

登場人物の変化に注目して話し合わせよう

1回目の交流会と2回目の交流会の2つの場面を比較したり、何が登場人物を変えたのかについて話し合わせたりして、多面的・多角的に考える場を大切にしていく。

自己の生き方についての考えを深めさせるために

今日の学習を通して考えたことを書かせよう

本時の学習を通して考えたことを書く活動を設定し、価値に対する自分の思いの変容や日常の自分を見つめることができるようにする。

指導内容の系統性・発展性、各教科等との関連

道徳科（4年）——伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

2「たな田が変身」（きょう土を大切にすること）

19「不思議なふるしき」（日本人のちえと心）

「留学生との楽しい時間」（日本を知って世界とつながる）

社会科——日本の伝統工芸

総合——地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々